90-21-9445

慶應義塾大学ビジネス・スクール

小机タイヤ工業株式会社

小机タイヤ工業は，タイヤ専業のメーカーである．同社では，乗用車用タイヤ，産業車両用タイヤ，およびレーシングカー用タイヤを開発・製造・販売しており，それぞれの製品部門をプロフィット・センターとして管理している．レーシングカー用タイヤは各種モーターレース用に開発されており，最先端かつ高水準の技術が応用されている．収益・利益の規模は小さいものの，各種モーターレースを通じて同社の技術力を広くアピールする広告塔としての役割が期待されている．モーターレースで高い技術力をアピールし，乗用車用タイヤや産業車両用タイヤに顧客を引っ張ってくる，というのが同社のビジネス・モデルになっている．実際，外部のコンサルタントに調査を依頼したところ，レーシングカー用タイヤ部門が，乗用車用タイヤ部門と産業車両用タイヤ部門の売上高をそれぞれ 10% と 5% 増加させていることがわかった．

一般に，乗用車用タイヤや産業車両用タイヤと比較して，レーシングカー用タイヤにはより高度な技術力が要求される．レーシングカー用タイヤ部門を持っていることで，より能力の高い人材の採用やその定着が見込めるばかりでなく，レーシングカー用タイヤに向けて開発された技術を乗用車用タイヤや産業車両用タイヤに応用することで，一般向け製品の品質も向上することが見込まれている．また，高い技術力を要求されるレーシングカー用タイヤを開発しているということが，同社社員の誇り，ひいては同社社員の会社への帰属意識の向上にも寄与している．

同社では，各部門に固有の固定費（個別固定費）と，各部門に共通する固定費（共通固定費）に分けて固定費の管理を行っている．製造・販売にかかわる活動は各製品部門が独立して行っているため，これらの活動に係る固定費は個別固定費として認識される．当年度の各部門の売上高，変動費，個別固定費は以下の通りである．

このケースは，慶應義塾大学ビジネス・スクール専任講師　木村太一が，原価計算の演習問題として作成した。ケース中の企業は架空のものである。

本ケースは慶應義塾大学ビジネス・スクールが出版するものであり、複製等についての問い合わせ先は慶應義塾大学ビジネス・スクール（〒 223-8526 神奈川県横浜市港北区日吉 4 丁目 1 番 1 号、電話 045-564-2444、e-mail:case@kbs.keio.ac.jp）。また、注文は http://www.kbs.keio.ac.jp/ へ。慶應義塾大学ビジネス・スクールの許可を得ずに、いかなる部分の複製、検索システムへの取り込み、スプレッドシートでの利用、またいかなる方法（電子的、機械的、写真複写、録音・録画、その他種類を問わない）による伝送も、これを禁ずる。

Copyright © 木村太一（2021 年 8 月作成）